

「先生は正義の味方安心せい」

2026・4・15 重枝 一郎

安定した学級経営には、何より「安心感」が大切である。

もう30年以上前の話になるが、生徒の人権標語コンクール（今もあるらしい）で、全生徒が作った標語を市に提出し、その中で優秀と認められた作品が廊下などに飾ることができるパネルになって表彰されるというものがある。私は、生徒に標語を考えさせている間、とても暇だったので自分も作って、こっそり提出袋に混ぜた。私が提出したのはタイトルの「先生は正義の味方安心せい」だった。ちょっとした洒落のつもりだったが、なんとこれが最優秀賞をとってしまい、校長先生と話して、生徒と一緒に表彰することになった。司会の教頭先生が「重枝一郎君」と呼名をし、私が大きな声で「はい！」と返事をし、表彰を受ける生徒たちに混ざって壇上に上がった。想像通り大うけであった。ただ、それだけでは終わらず、このことに感心したPTA会長さんが、入学式の祝辞等でいつも「この標語がある限り、安心していい」と話してくれていた。もちろん私は「有言実行の先生」になることを心掛けていた。生徒からすれば、そう宣言した重枝先生だから、厳しいことを言っているというアリバイにもなっていた（笑）。

「安心感」の背景には、「有言実行」「筋を通す」ことがとても大切になる。それが生徒からの信頼につながる。特に「いじめ」に関することは、生徒・保護者共に不安を抱いている。これに対しては毅然とした態度を示すことが必要である。「いじめは絶対許さない」と強く宣言しなくてはならない。これはいじめ加害者を強く罰するために言っているのではなく、生徒の信頼を得るきっかけのためである。

信頼関係は一朝一夕に築けるものではない。1年間をかける。そのビジョンと、それに向かうパッションを持たなくてはならない。生徒も教師も「1年後になりたい自分」を強くイメージできているかが大切になる。

昨年度のパワーフレーズである「チャーミングなファーストペンギンになろう」の「チャーミング」に関しては、継続して浸透させてほしい。つまり「応援され力」のことである。ポイントは、「あいさつ」「お礼」「真剣さ」「ひたむきさ」「笑顔」。これは学級経営の柱にしてもらいたい。特にあいさつは、もっと生徒に要求していい。必ず「安心感」づくりにつながる。

今、おそらく生徒が家に帰ると、学校での新しい出会いの話をしている。保護者から「新しいクラスどう？」「担任はどんな先生？」等質問されていると思う。この時期の初頭効果はとても大事になる。だから少し圧がかかるくらい「先生はいじめを絶対許さない！」と宣言してほしい。でも、これだけだともしかしたら可愛い先生で終わってしまうので、ちょっとしたゲームのようなものや、職員研修でやったようなグループワークをセットするのがよい。生徒を活動させると、その生徒のことがよく見える。これは先日の職員研修でも同じである（笑）。もし、活動中にネガティブな言動が出たら、ビックチャンスになる。「そんなことをしていたら、いじめのないクラスにはならないんじゃないか」と体験的に理解させることができる。生徒たちは言われただけでは記憶に残らない。職員研修で話した「聞くだけ授業」と同じである。活動を通した体験は、成長実感が、もれなく付いてくる。このような出会いの時間を、生徒が家で話してくれれば保護者も安心する。話さないかもしれないと思うなら、学級だよりで伝えたい。

1年間の学級経営にトラブルは付きもの。すべてが理想通りに進むわけがない。ピンチの 때가、私たちの成長のチャンスになる。チームで連携しながら乗り越えてほしい。乗り越えた成功体験が大きな転機となって、次の学級経営にも生きてくる。

充実した1年間を過ごそう。